

### 子どもの安全を高めるために！

松戸、新潟の凶悪事件のように、見守りの死角・空白地帯で犯罪が起きています。子どものつれ去り、殺人などの犯罪の手口を知って登下校の安全を守りましょう。地域の安全について警察や学校、行政と地域が連携して具体的な対策を考えていきましょう！

**地域のつながりが犯罪防ぐ**

**危険個所、子どもとチェック**

**防犯ブザー、ためらわない**

子どもに教える防犯対策 **不審者の手口** (「家庭と防災」より)

「一緒に車に乗って駅まで案内して」と道案内を頼まれたら ⇒ **近くの人を呼ぼう！**

道案内を装った手口は子どもの親切心を利用しようとする卑劣なものです。困っている人がいたら子どもだけで対応しないことです。

「モデルにならない？写真撮らせて」と誘われたら ⇒ **写真は撮らせず親に相談しよう！**

モデル勧誘は子どもの目立ちたいという願望や虚栄心を利用したものです。本物のモデルの勧誘であれば子どもだけでなく必ず親にも会うものです。

いきなり腕をつかまれて車に連れ込まれそうになったら

⇒ **防犯ブザーを鳴らし大声を出して逃げよう！**

大人の力でつかまれたら勝ち目はありません。周囲の人に知らせ助けを求めながらとにかくその場から離れ難を逃れることです。

### 身につけたい3つの危険回避能力

子どもはリスクを理解できても行動まで伴わないことが多いものです。遊びに夢中になるとスキがでて無防備になりやすく、犯罪者が話しかけやすく、また接近しやすくなります。

- ①危ないことを察知する
- ②早期に対応する
- ③抵抗・逃げる

#### 親子でできる防犯練習 万一のための訓練

##### すれ違い練習

適度なすれ違いの距離を実感する  
すれ違う手前からその人をしっかり見る  
大人が手を伸ばしてもすぐに届かない距離を保つ



##### 大声を出そう練習

体が震えるくらい  
の大声を出す

##### 防犯ブザー練習

実際に鳴らせるかを  
確認しておく  
鳴らしやすいように  
おへそから腰のあたりに来るようにする



##### 走ろう練習

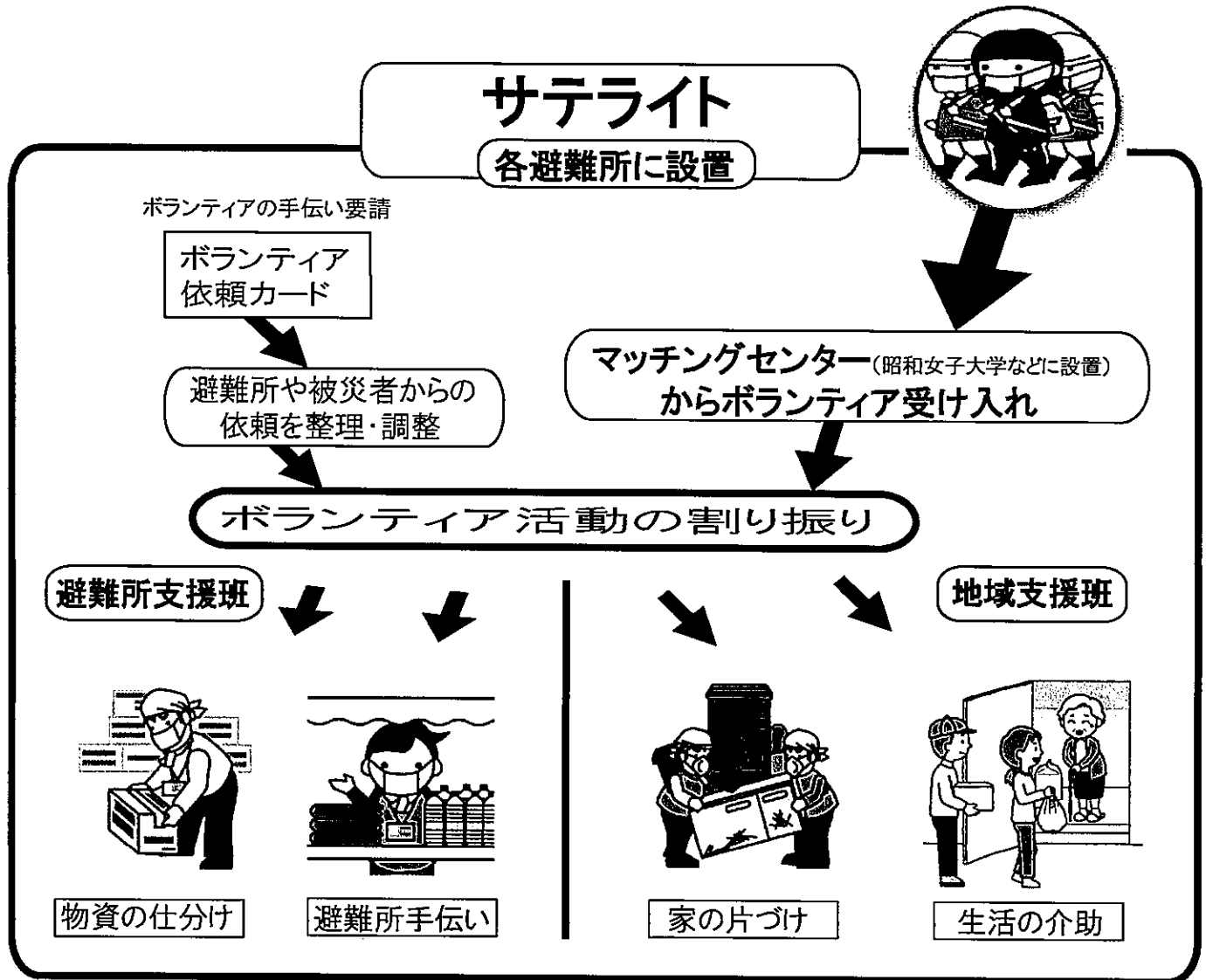
かばんありかなしか両方で  
20秒を思い切り走って  
相手から逃げる



(ステップ研究所資料より)

# 災害の時にボランティアに 手伝ってもらうには？

大規模な災害が起きた時、全国から集まる災害ボランティアを受け入れ、地域と避難所の困っている方の要請(ニーズ)に対応して、ボランティアに手伝ってもらうことができます。いざという時、世田谷では区内91ヶ所すべての小・中学校避難所に地域の拠点としてボランティア・サテライトが立ち上がります。



世田谷区は上記のようなボランティア受け入れ計画を進めています。ボランティア受け入れを運営していくのはマッチングコーディネーター(調整役)です。現在、マッチングコーディネーターの養成講座を開催し、担う方々を養成しています。

過去の災害では人手が必要な被災者が大勢いたにもかかわらず、大勢のボランティアのマッチングに対応しきれず受け入れを断るケースも見られました。いざという時サテライトの運営がスムーズにできるようにしたいものです。

若林・三軒茶屋地域のボランティア・サテライトは**若林小学校、三軒茶屋小学校、太子堂小学校、中里小学校**に設置される予定です。

若林地区身近なまちづくり推進協議会は若林まちづくりセンター管内の住民委員で構成された協議会です。安全安心部会は主に防災・防犯・交通安全など地域の安全安心まちづくりを推進しています。この通信は三軒茶屋・若林地域に掲示・回覧・配布しています。世田谷区のホームページからも見るすることができます。

メンバー 太田みね子 小泉一哉 米屋治幸 鈴木新 高木史雄 月村雅一 廣瀬稔教 藤原道恵 安原正紀 (アイウエオ順)